旬を聴く FILE 7

中嶋彰子

ソプラノ／Akiko Nakazima

●プロフィール 北海道釧路市生まれ。15歳で渡豪、シドニーで音楽教育を受ける。90年の全豪オペラ・コンクールに優勝、シドニー・オペラハウス、メルボルン・オペラハウスで歌手としてのキャリアをスタートさせた。92年にはナポリのサン・カルロ劇場「ラ・ボエーム」のムゼッタ役を歌ってヨーロッパ・デビューを果たす。この年、インスブルックの国際バロック音楽祭でヘンデルの「アルチーナ」のタイトルロールを歌い、ヨーロッパ放送連合の92年度最優秀賞を受賞した。92～97年にオーストリアのインスブルックのチロル州立歌劇場の専属歌手として活躍。97年からはドイツのダルムシュタット州立歌劇場と契約、「ルチア」のタイトルロールで大成功を収め、音楽雑誌「オペルン・ヴェルト」の年間最優秀新人賞にノミネートされる。99年9月より、ウィーンのフォルクスオーパーの専属歌手として活躍中。

ドミニク・メンターがウィーン・フォルクスオーパーの総監督に就任したのが、九九九年の九月。彼はこの時、前任地であるインスブルックのチロル州立劇場から歌手、スタッフを数人連れてきたが、その中でも、ひときわ活躍が目立つのが中嶋だ。プレミエを含めて登場回数が抜群に多い。

彼女のフォルクスオーパー正式デビューは九九年十一月十三日、レハールの「ロシア皇太子」のプレミエとなった。この時の中嶋は、フォルクスオーパーの舞台をはみ出さんばかりの勢いがあった。押し出しの良さ、存在感が圧倒的で、舞台をすっかり我が物にしていた。好奇心マル出しで、冷ややかだった会場が時間の経過とともに彼女に魅了されていく。フォルクスオーパーのお家芸であるレハールのオペレッタでデビューすること自体が、非常にリスクを伴うものであったのは事実だが、それを逆手に取って成功を収めた。

そして、二〇〇〇年三月、ドニゼッティの「ドン・パスクワーレ」新校訂上演（イタリア語版）は、フォルクスオーパーにおける決定的な地位を彼女に約束するものになった。ノリーナは、まず貞淑な女性を装ってドン・パスクワーレの歓心を買い、結婚したとたんにジャジャ馬に変身するという、十分に芝居ができる役柄だ。中嶋のキャラクターにピッタリで、彼女が舞台で大きく羽ばたいていて痛快だった。

ものおじしない度胸の良さは普通の日本人には見られない、彼女の長所だ。演技力も抜群。発声、発音のテクニックにおいても日本人離れしている。声帯に負担をかけずに、強い横隔膜を駆使して、とにかく声が天井桟敷までよく飛ぶ。

ただ、声質そのものは日本人のそれで、軽めのソプラノ。将来、肉付きがよくなって、重量感を増すことに期待したい。そうなれば、役柄は飛躍的に増大するだろう。また語学力が抜群でドイツ語、イタリア語、さらに英語に堪能。オペレッタでことに重要なドイツ語による〝地のせりふ〟であっても、まわりの出演者となんら遜色ないのだから。

「オペルン・ヴェルト」の年間新人賞にノミネートされたほどの「ルチア」、ベルカント系ではさらに、ベッリーニ「夢遊病の女」、ドニゼッティ「連隊の娘」、ロッシーニ「セヴィリアの理髪師」のロジーナが持ち役。モーツァルトは「魔笛」のパミーナ、「フィガロの結婚」のスザンナ、「ドン・ジョヴァンニ」のツェルリーナ、「皇帝ティトの慈悲」のセルヴィーリア。純粋なドイツ物ではリヒャルト・シュトラウス「薔薇の騎士」のゾフィーが大変気に入っているという（アンゲラ・デノケの元帥夫人と共演したことがある！）。オペレッタでは「こうもり」のアデーレを得意にしている。来シーズンはマスカーニのオペレッタに手を出すかもしれない。

今シーズンの最初のプレミエ、昨年十月のストラヴィンスキー「放蕩者の成り行き」にもアン役で登場、非常な集中力で絶賛を浴びた。十一月には、ロバート・カールセン演出による「魔笛」再演にパミーナ役で出演。この時も、モーツァルトの様式をしっかり押さえてスキのない歌唱を聞かせた。これだけ多種多様なキャラクターを、どれも立派に演じることの出来る中嶋のキャパシティの大きさが、なんとも素晴らしい。

今月末には日本にいったん戻って、現在の充実ぶりを日本の音楽ファンの前で披露するが、フォルクスオーパーの次の出番は六月、「椿姫」のプレミエだ。ヴィオレッタは念願の役という。さあ、楽しみだ。

文＝山崎睦◎音楽評論家
Text by Mutsu Yamazaki

●最近の充実

公演はすべて、ウィーン・フォルクスオーパー

99 レハール：「ロシアの皇太子」（プレミエ）-ハワード・アルマン指揮／ソニヤ役

00 ドニゼッティ：「ドン・パスクアーレ」ーニール・ムース指揮／ノリーナ役

ストラヴィンスキー：歌劇「放蕩者の成り行き」（プレミエ）-トーマス・ヘンゲルブロック指揮／アン役

●自宅で"旬"を聴く

ベートーヴェン：交響曲第九番「合唱」

㊐ヘルミーネ・メイ、ヘルベルト・リッペルト、ヴォルフガング・バンクル㊑クリストフ・エッシェレ㊎フォーアアルルベルク交響楽団（"ブレゲンツの春音楽祭2000"のライブ）

※オーストリア放送協会（ORF）制作。一部が日本に入ってきている。

●実際の演奏に触れる

●ウィーン・フォルクスオーパー

㊏1月20日

㊍モーツァルト：歌劇「魔笛」（パミーナ）

演ロバート・カールセン

㊐アレクサンダー・ジョエル

㊏3月30日、4月4,7,21,29日

レハール：喜歌劇「ロシアの皇太子」

演ドミニク・メンター

㊐ハワード・アルマン

㊏6月15,19,22,26,29日

ヴェルディ：歌劇「椿姫」（プレミエ）

演ハンス・グラッツァー

㊐未定

●NHK交響楽団

㊏1月31日（水）19:00～

サントリーホール

㊍ヴェルディ「椿姫」からヴィオレッタ名場面集

㊏2月3日（土）16:00～

市川市文化会館（千葉）

㊍J・シュトラウスⅡ「こうもり」から『ふるさとの調べよ』、「春の声」他

㊏2月4日（日）18:30～

和光市民文化センター（埼玉）

㊍2月3日と同じ

㊐カルロス・カルマー

㊏4月27日（金）19:00～,28日（土）14:00～

NHKホール

㊍マーラー：交響曲第4番

㊐ヘルベルト・ブロムシュテット